

JRO 日本山岳救助機構 遭難事故 第 1 報 報告書

遭難した会員 1 名につき 1 部作成ください。

記入日 年 月 日

* 記入者; □本人 □ほか:氏名: (遭難会員との関係)

遭難した会員について

*氏名: *氏名フリガナ:
*性別;□男・□女 *生年月日; 年 月 日 *年齢; 歳(事故時の年齢) *jRO 会員番号;
*住所:〒
*連絡先:TEL 携帯: メール
*連絡可能時間など
*jRO 会員種類; □個人 □家族 □団体 (団体名称; 団体本会員氏名: 都岳連加盟・そのほか)
*同種の保険/制度等(遭難事故に対応することができる可能性あるもの)□なし □あり(引受会社/制度名など)

記載事項への照会先: □本人 □記入者 □ほか()

*住所:〒
*連絡先:TEL 携帯: メール
*連絡可能時間など

JRO カバレッジ制度請求予定者 □本人 □親族(関係;) 原則として本人(死亡の場合は法定相続人)以外の請求は受付不可です

請求書類発送先(本人以外の時はご記入下さい) *氏名: 本人との関係:

*住所:〒
*連絡先:TEL 携帯: メール

遭難の概要 (記入および☑で選択(複数選択可能)してください。一部重複と思える箇所もありますがご記入ください)

遭難発生日: 年 月 日 時頃 天候: - 救助活動の実施有無 □あり □なし

遭難場所: 都道府県: エリア/山域: 救助活動実施者:□警察 □消防 □消防団 □同パーティー
山名: □付近山小屋 □遭対協 □所属山岳会 □親族
場所名/ルート名など: □付近登山者 □ほか(

パーティー構成:□単独 □__名(□家族 □団体) 救助搬送手段 □ヘリコプター(ヘリ種類:□警察 □消防 □民間)
団体の場合:名称等 □人力搬送(□ストレッチャーなど □担ぎ)
遭難の概要: □自力下山(□付そい者あり;付き添い者名称:

遭難事故の発生状況:□登山中 □下山中 □渡渉中 □山スキー・ 遭難者収容先 □最寄医療機関 □警察 □消防
ボード滑降中 □山小屋内 □とはん中 □登山口 □そのまま帰宅 □ほか(

遭難事故主要原因:□転倒 □滑落 □負傷 □悪天候 □道まよい 捜索救助費用の総額見込み:¥ -
□落石等 □雪崩 □発病 □ほか(内支払い済:¥ 支払先:

遭難後ビバーク有無 □:無 収容後の遭難者の身体状況 □死亡 □受傷あり
□:有__泊/場所:____にて 負傷 疾病部位およびその内容:

探索/救助要請を行った者:□本人 □同パーティー □付近登山者 救助後医療機関による治療 □有 □入院__日 □入院なし
□山小屋関係者 □親族 □ほか(医療機関名:
救助要請先:□警察 □消防 □付近山小屋 □付近登山者/パー ティーなど □所属山岳会 □親族 □ほか(医師による診断名 1:

探索活動の有無 □あり □なし 複数の医療機関/複数の傷病がある場合など足りない場合は詳細を
探索活動実施者:□警察 □消防 □消防団 後ページに記入ください):

□付近山小屋 □遭対協 □所属山岳会 □親族 駆けつけた関係者 □あり □なし
□ほか(ありの場合 関係とおおよその経費

遭難者の発見:□未発見 (□現在捜索中 □捜索活動実施予定) *本紙受理次第jRO カバレッジ制度の請求のご案内を送らせて頂きます。
□済(□遭難日に発見 □:__月__日発見 □__頃頃発見) コピーしたものでも受付可能。図等を入れ、本紙が足りない場合は別紙にお書

事故(発見)時の遭難者の状況:□死亡 □呼吸なし □意識不明 き下さい。

□大量出血 □歩行不可能 □出血 □発熱 □おう吐 送り先: FAX:042-669-5331 mail:jro@e7a.jp
□やけど □身体的異常なし □重傷 □軽傷 事務センター使用欄:退会届作成 □要 □済 □担当__-
フリーダイヤル(固定電話のみ):0120-359-260(平日10時から17時)電話番号:042-669-5330(平日10時から17時) 20170907 v10

もし、遭難事故にあったら？

- 警察・消防、近くの山小屋、登山者等に救助要請をしてください。
- 携帯電話の繋がる場所でしたら警察・消防へ通報（110 番、119 番）をお願いします。その際はまず「山岳遭難です！」とお伝えください。通報時には、現在地・事故の状況・遭難者の個人情報・通報者・症状・措置の概況・同行者の状況等をメモしておきましょう。その後、警察や消防からの連絡や指示を待ちます。このため携帯電話は待機にします。
- 家族・友人への連絡は救助後にしましょう。貴重な携帯電話のバッテリーは警察・消防からの連絡のためにキープしましょう。

公的機関(警察・消防)による一次捜索終了後の対応について

第二次捜索のための救助隊派遣を斡旋いたします。救助隊は、地元警察や消防による一次捜索終了や所属山岳会等での救助が不可能な場合など、遭難者やその家族の出動要請により、その都度組織編成され出動します。出動要請やご相談については以下の説明をお読みになりご理解の上、ご連絡くださるようお願いいたします。

- 救助隊はレスキューサービス会社ではありません。
要請を受け、救助に向かう救助隊には様々なレスキュー技術やノウハウがありますが、救助隊は他に仕事を持っている者で組織・編成されます。いづれどこで発生するのかわからない山岳遭難事故に対して待機をしているわけではありません。したがって、交通事故や自動車のトラブルに即座に出動する JAF やレッカー会社のように、遭難者やその家族からの要請ですぐに事故現場に駆けつけることはできません。
- 救助隊は地元の警察と連絡を取りながら、救助プランを作成し実行します。
遭難や現場の状況(天候、地形、負傷程度、これまでの捜索状況など)を現地・地元警察などと確認し、必要と思われる装備を用意し、そして出動可能な隊員を選考し組織・編成されます。
- 救助隊は有償となります。
救助隊は営利組織ではありませんが、発生した経費は遭難者にご負担いただきます。救助隊の隊員は遭難発生現場周辺において、自らの生命身体を危険にさらし、多くの場合仕事や休日を調整して捜索・救助に向かいます。また、消耗品や通信費などの経費も発生することが想定されます。ただしこれらは、jRO のカバレッジ制度で認定された費用については補てんの対象となります。

捜索救助費用のご請求は救助活動が一段落後、会員証に同封の「遭難事故第一報報告書」(本紙)にご記入の上、事務センターへお知らせください。請求書式や手続きについてご案内いたします。

ご連絡先：jRO 事務センターまでご連絡ください。

フリーダイヤル(固定電話のみ):0120-359-260 電話番号:042-669-5330 FAX:042-669-5331 メール:jro@e7a.jp
平日 10 時～17 時まで